

横芝の碑

(その八十八)

国土安穩祈願の 庚申様 (遠山)

遠山部落の道は、俗にお阿弥陀様と呼んでいる万福寺を取囲む様な形で、展開しています。

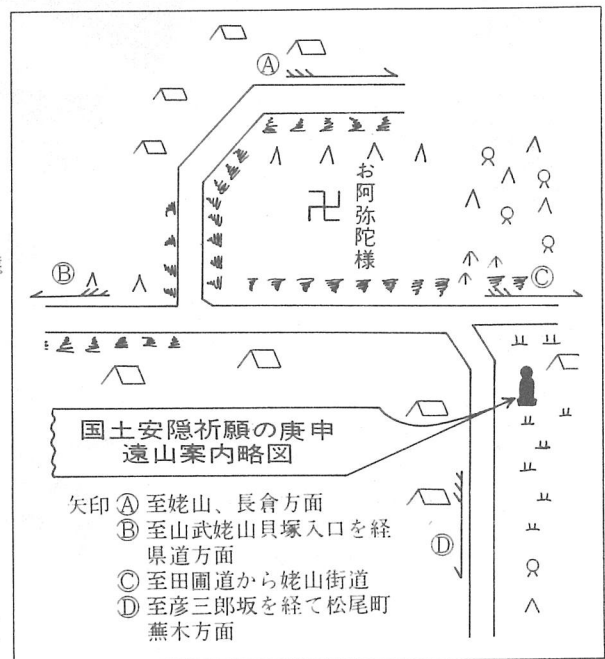
門前の道を右に進むと、姥山貝塚の入口を経て中台方面から来る県道に入り、左に進むと、間もなく二つに分れ、まっすぐに行くたんぼ道で、右に曲ると、この里の人々が感謝と誇りの語り草としている、彦三郎坂(その二十三で

紹介済)から松尾町蕪木の部落に通じていますが、この角を曲るとすぐ右側には人家が続き、左側は畑になっています。畑は道路から大分高くなっています。その上丁度道路を見下す様な形で、庚申様が建っています。後には二抱えもある樺の根株が重々しく根張りを見せていて、何となく庚申様に時代を感じさせますが、事実

この庚申様の建立の年代は古く、正徳二年(一七二二年)で、今から二七八年も前なのです。正徳二年といいますが、赤穂浪士が吉良邸に討入りをした元禄十五年(一七〇二年)に遅れること僅か十年、大岡裁きで名高い大岡越前守が江戸町奉行に登用された享保二年(一七〇七年)より五年前という頃で、新井白石が幕府の需学者として活躍していた時代です。庚申信仰が庶民の中で盛んになって来たのは、宝永の富士山大噴火や再三にわたる大火災や地震に、世情が騒然としていたことに加え、大平に馴れた諸大名が財政の困窮に悩み始めて来たのにもかかわらず、幕府では各地の社殿や堂宇の増築を命じたので、そのしわ寄せは領民に苛酷な賦課使役が強いられることになり、その結果は、ある意味での為政者に対する抵抗から、遠くの殿堂より近くの祠という気持ちで台頭、部落毎、又は同じ信者が身近な所に庚申様を建てて三層虫追放の祈願と共に、悪疫退散、諸願成就の寄所とするようになった。という説があります。成程、庚申様の建立年代を調べて見ますと、元禄年間以前にはほとんど見かけず、宝永年間以降に多いことや、刻まれている文字が、諸願成就、奉待庚申等と自分達だけの願望が多いこと等を考察しますと、この説を肯定し



▲天下泰平国土安穩と刻まれた遠山の庚申様



てもよい様な気がします。処がこの遠山の庚申様は、天下泰平国土安穩と刻まれているのです。当時の状況を考えて見ますと、天下とは幕府のことであり、国土とは日本国を指しているもので、どう考えて見ましても時の為政者に対する協力が感じられるのです。

お阿弥陀様は、芝山観音教寺の末寺となっていますが、その昔は観音教寺の隠居寺として善男善女の尊崇を集めていたものと伝えられております。そうしたことを考えて見ますと、あるいはお阿弥陀様が幕府の庇護を受けていてこれに併せて、遠山の里人も何かの形で恩恵に浴していたのかも知れません。これは何処までも仮

説で、その事実については、物言わぬ庚申様だけが、知っているのです。

◎写真はその庚申様の側面で天下泰平国土安穩の八文字が、深々と刻まれています。道に面した方が正面で背面金剛像が、向う側には正徳二辰二月吉日、上総国遠山村、とそれぞれ刻まれています。庚申様の後には、根張り見事な樺の切株が見えています。松尾街道が下の方に白く見えています。

本稿取材に当り、地元小川文夫氏(文化財審議会委員)のご協力を頂きました。

町文化財審議会委員

小川春光氏寄稿